



消費税が上げられると

年間の消費支出は4人家族の平均が、約381万円です。これは消費税を含んだ金額なので、税抜き価格は362.9万円【=381万/1.05】で、払った消費税は18.1万円です。

消費税が10%に増えても、収入が増える訳ではありませんから、一年間に消費できる合計金額は増やせません。この場合、税抜き価格合計は346.4万円【=381万/1.1】に減り、払う消費税は34.6万円【=381万 x (0.1/1.1)】に増えます。つまり、

実質の消費が362.9万から346.4万に減り

==> 景気が悪くなる

のです。

高額所得者は、消費税が上がっても、貯金や株式、不動産投資を少し減らすだけで、同じ税抜き価格の物を買えます。しかし、庶民はそういう訳には行きません。

財政に必要な時に、消費税を増やせば、それだけ、

税収は増えますが、国の景気はそれだけ悪くなります。

ギリシャのようになっては・・・

ギリシャの経済危機は大変ですね。日本も国は900兆近い借金がある・・・でも、一方、政府は社会保障基金等で約500兆の金融資産がある。差し引き367兆円の債務ですが、これは他の先進国と変わらない。そして肝心なのは、ギリシャは消費税を引き上げ、法人税を下げ、危機に陥ったのです。これは、今、菅首相がやろうとしていることではありませんか？「年収400万までは消費税を還付する・・・」等と言いましたが、「普天間の基地は国外、最低でも県外」と鳩山氏が云ったのに「あれは党の公約ではなかった」という実績のある党の党首が云うことを、どう解釈すれば良いのでしょうか？

皆さんはどう思われますか？



雨に降り込められたムンバイ

二〇〇六年に六月にインドに出張した時の事です。ホテルで休んでいると急に雨模様になりました。モンスーンの始まりです。傘をさしている人はごく僅か。急な雨に、ビルの軒下や、露店のテントの下で雨宿りしています。モンスーンは「雨期」。日本の梅雨に対比されます。でも、梅雨時に、しとしとと雨が長続きするのに対して、モンスーンでは、毎日のように雨は降りますが、いつもにわか雨です。突然、空が暗くなり、急に降り

だし、時には土砂降りになります。時間がやんでしまします。気温も高いので、少々濡れても、平気。そのままにしていると、その内に乾いてしまうのです。